白石市立 小中学校のあり方 に関する基本方針
～子どもたちの元気な笑顔と、活気あふれる学びのために～

問学校管理課　☎22-1341








子どもたちの学びと成長を支えるために

現在、日本では急速な人口減少と少子化が進んでおり、本市も例外ではありません。

本市では、令和3年12月に設置した「白石市学校教育・保育審議会」から令和5年7月に受けた答申で、10年後の教育環境の充実に向け、従来型の学校統廃合ではなく、規模の異なる3校への再編が提言されました。

市の推計では、令和7年度に小学生1,106人、中学生630人であった児童生徒数は、令和20年度には小学生360人、中学生252人まで減少する見込みです。

さらに、市内の学校では、1学年1学級となっている学校が多く、1学年の児童生徒数が10人以下となっている学校もあります。また、複数の学年を1つの学級に編成する「複式学級」が増えており、小学校10校のうち4校では、全ての学年が複式学級となる「完全複式」となっています。このまま児童生徒数の減少や学校の小規模化が進むと、子どもたちが多様な考えに触れながら、他者と協力して学ぶ「協働的な学び」の機会が限られるなど、学校における教育活動への影響が懸念されます。

本市では、審議会から答申を受けた「10年後の学校再編」の前に段階的な再編が必要な状況にあると考え、令和8年3月に基本方針案を取りまとめ、パブリックコメントを実施するとともに、市内各所で42回の説明会を開催しました。

さらに、保護者や地域の皆さん、小中学生、高校生などから寄せられた多くのご意見を踏まえ、このたび「白石市立小中学校のあり方に関する基本方針」を策定しました。

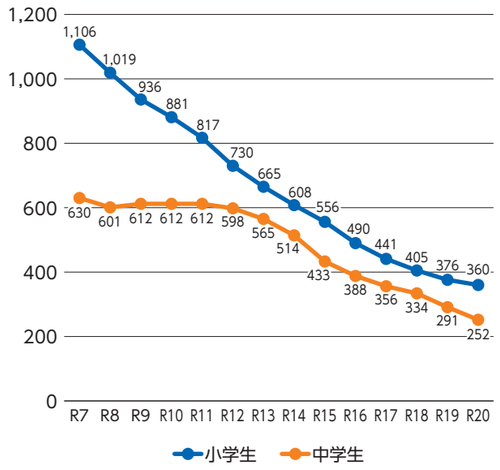
今後は、保護者、地域住民、教職員の皆さまに参画いただきながら、開校に向けた準備を進めていきます。基本方針の説明会の開催も予定していますので、開催日時や会場などの詳細については、決まり次第、チラシや市ホームページなどでお知らせします。

基本方針の全文は市ホームページに掲載しております。次の二次元コードからぜひご覧ください。

学校管理課ホームページ▼

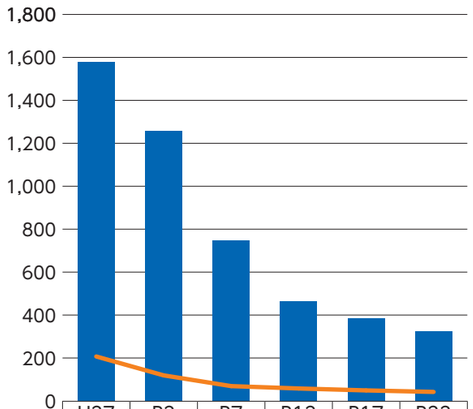
児童生徒の将来推計

単位：人



出生数と未就学児人口の推移・推計

単位：人



	H27	R2	R7	R12	R17	R22
0～6歳児	1,578	1,257	747	464	382	324
0歳児	207	119	69	58	49	42

段階的な再編の方針

・完全複式となっている学校および1つの学年が1～2人の在籍となっている学校は、速やかに再編する。
・学級数が4学級以下となっている学校は、速やかに再編する。
・再編の準備のため、「再編準備期間」として2年程度の期間を設定する。

学校再編に向けた方針（キーコンセプト）

「多様性の時代に対応し、一人一人の良さや可能性を育てる教育」

・規模の異なる3校に再編し、子どものニーズに合った学校をつくります。
・市内全域を学区とし、子どもや保護者の希望に応じて学校を選択できるようにします。
・特色ある学校づくりを推進し、子どもが自分の持つ良さや可能性を伸ばす教育課程を編成します。

再編後の3つの学校像

1．義務教育学校

令和16年度の開校を目指し、白石第一小学校の敷地およびその周辺に新設します。本市の特色を生かした独自のカリキュラムを定め、白石市ならではの教育を行います。

2．小中一貫小規模校

1学年10人程度の学校を目指します。場所は出生数や児童生徒数の動向を踏まえ検討します。

3．小中一貫学びの多様化学校

不登校児童生徒の実態を踏まえたカリキュラムを編成し、基礎学力の向上と社会性の伸長を目指すとともに、これまでの白石南小学校・白石南中学校の実績を生かし運営します。